2018年9月
一般財団法人日本総合研究所（JRI）

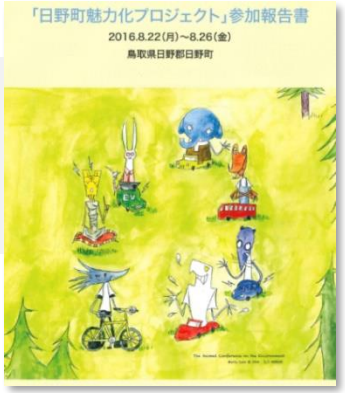
2018年日野町魅力化プロジェクト 実施報告と3年間の総括

1. 事業の目的

- プロジェクトの目的は、高齢化と過疎で悩む日野町をフィールドに、**東京と地方の大学生が協働し、まち歩きや体験等を通じて、まちの課題や魅力を探る**こと。
- 2016年から毎年（大学の夏期休暇中）、テーマごとにチームに分かれて町の魅力や課題を調べ、最終日に報告会を開催し、事業化アイデアを提案。

  - ☑ 産業：主要産業である農業の6次産業化、農商工連携等
  - ☑ 観光：観光資源の発掘、体験型ツーリズム、インバウンド等
  - ☑ 生活：子育て環境、ICT等インフラ整備等
- 2018年のプロジェクトでは、3チームが「農業」をテーマの主軸に、産業活性化、交流人口や観光客の増加策を検討し、事業化アイデアの提案を行った。

「事業化アイデア」の目指すところは、**スモールスタート**
（お金をかけずに、今ある資源・潜在的な資源で、
できることから、とにかく実践につなげる）



2. 日野町魅力化プロジェクトの概要

(1)連携の枠組みーコラボレーション

≪主催≫日野町魅力化プロジェクト実行委員会
（実行委員長　中山法貴氏・地域おこし協力隊）
≪後援≫日野町
≪協力≫日野町住民（ホストファミリー、取材先等）
東京富士大学　企業ビジネス研究同好会（顧問：渡辺泰宏准教授）
高橋ゼミ（担当：高橋哲也准教授）
鳥取大学、島根大学
一般財団法人日本総合研究所
一般社団法人IGOコミュニケーションズ（理事長：安田泰敏棋士）

〇弊所がコーディネート役を担い、日野町内の多様な主体（地域おこし協力隊、町役場、住民等）と、首都圏や地方の大学が参画する形でプロジェクトを実施。

(2) 日野町魅力化プロジェクト実施経過 【2016年】

【2016年 日野町魅力化プロジェクトのプログラム】

8/22（月）	15:00	根雨駅集合		
	15:10	オリエンテーション（役場）		
	16:00	入浴（リバーサイドひの）		
	17:00	講演会（菅福社会体育館） 久代さん、中原さん		
	18:00	バーベキュー（菅福社会体育館）		
	20:00	片付け		
		就寝（菅福社会体育館）		
		産業チーム（4名）	観光チーム（4名）	生活（衣・食）チーム（4名）
8/23（火）	7:00	おにぎり作り　朝食		
	9:00	草刈り体験（日南町）	なたね種まき体験（上菅）	農作業体験（舟場）
	11:00	体験先でお話	体験先でお話	体験先でお話
	12:00	昼食（おにぎり）	昼食　体験先	昼食（おにぎり）
	13:30	取材 日野町商工会（根雨） その後　日野町役場産業振興課	取材 日野町観光協会（根雨）	取材 日野町役場企画政策課（根雨） 空き家見学ほか
	17:00	夕食　交流会（菅福社会体育館） 講演会　高田さん		
	20:30	ホームステイ先へ		
		船越さん（黒坂）	ブランチマスター（根雨）	中原さん（黒坂）
8/24（水）	7:30	小林さん　農家　出荷（黒坂） その後フリー	フリー	小林さん　農家　出荷（黒坂） その後フリー
	9:00	取材 久代さん　しいたけ（黒坂）	取材 奥日野ガイドクラブ（根雨）	取材 菅福元気邑（上菅駅集合）
		昼食　各自		
	13:00	川遊び（上菅）もしくはフリー		
	17:00	夕食　交流会（菅福社会体育館） 講演会　小谷議長		
	20:30	ホームステイ先へ		
8/25（木）	7:00	農家朝カフェ（黒坂）	フリー	農家朝カフェ（黒坂）
	9:30	ひのっこ保育所（津地） ふれあい囲碁大会　子どもたちと交流		
	12:00	保育所で給食		
	13:00	フリー　発表会資料作り		
	17:00	夕食　交流会（菅福社会体育館） 講演会　安田棋士		
	20:30	ホームステイ先へ		
8/26（金）	9:00	いいところ探し発表会		
	12:00	イベント終了　解散		

● 産業チーム

課題認識	鳥取県の中でも唯一ひかり回線が通ってない地域であり、インターネット環境なしでは若者や企業を呼び込むのは難しい。 物々交換など（親切と紙一重）、まち全体で金銭感覚の意識が低迷するおそれ。 そのほか、外部発信力の弱さ、人手不足。
解決策	①廃棄野菜の活用（正規ルート以外での販売先の開拓）。 ②日野町住民・移住者を対象としたデジタルコンテンツの外部発信。 ③首都圏から学生を呼び込み、SNS等を通じて情報発信、関係人口創出。

● 観光チーム

課題認識	日野町は通過型の観光地（滞在できるプランがない）。 土地の多さや空き地の多さ。 若年層やファミリー層、夏期の観光客の少なさ。
解決策	①出雲街道や古民家を気軽にぶらり旅できるツアー「日野ぶら」（事前申込制）、レンタサイクルによる自由な移動の実現 ②空き地や廃校などの遊休資源を利用した「ひまわり園」（迷路） ③Twitter や Instagram による PR、車内広告などの掲示板の活用

● 生活（食・住）チーム

課題認識	自家栽培や地元の野菜を食卓に並べバランスの取れた食事、団らんのある食事をしている（食育）。子どもの遊び場は自然の中。地域全体で子育てサポートする。といった子育て環境の良さは魅力だが、数ある地域の中から日野を選択するのは現実的ではない。
解決策	「子育て王国、鳥取一の子育てに良い町にする」ことを目標に、①ベビーシッター制度の導入、②社会人イベントの実施、③UIターンフェア広報の強化を推進し、日野町ならではの魅力を発信する。

- 参加学生12名（東京富士大学10名、鳥取大学1名、島根大学1名、うち留学生4名）

(2) 日野町魅力化プロジェクト実施経過 【2017年】

【2017 年 日野町魅力化プロジェクトのプログラム】

8/21（月）	15:00	根雨駅集合		
	15:10	オリエンテーション（役場）		
	17:00	歓迎会バーベキュー（菅福社会体育館）		
	20:00	ホームステイ先へ	ホームステイ先へ	ホームステイ先へ
		産業チーム（4 名）	観光チーム（4 名）	生活チーム（4 名）
8/22（火）	9:00	農作業体験	農作業体験	農作業体験
	11:00	体験先でのヒアリング	体験先でのヒアリング	体験先でのヒアリング
	12:00	昼食	昼食	昼食
	13:30	取材 日野町商工会（根雨） 日野町役場産業振興課	取材 日野町観光協会（根雨）	取材 日野町役場企画政策課 空き家見学
	17:00	ホームステイ先へ	ホームステイ先へ	ホームステイ先へ
8/23（水）	9:00	取材 しいたけ農家（黒坂）	取材 奥日野ガイドクラブ（根雨）	取材 「たたランチ」 根雨飲食店（根雨）
		昼食	昼食	昼食
	13:00	ラフティング		
	17:00	ホームステイ先へ	ホームステイ先へ	ホームステイ先へ
8/24（木）	9:30	ひのっこ保育所（津地） ふれあい囲碁大会 保育所の園児と交流		
	12:00	昼食		
	13:00	フリータイム 発表会資料作り	フリータイム 発表会資料作り	フリータイム 発表会資料作り
	17:00	交流会（上菅ゲストハウス）		
	20:30	ホームステイ先へ	ホームステイ先へ	ホームステイ先へ
8/25（金）	9:00	日野町魅力化プロジェクト 発表会（町役場）		
	12:00	イベント終了　解散		

- 参加者12名（東京富士大学10名、島根大学1名、JRI 1名）

● 産業チーム

課題認識	産業をおこすにも人手が不足しており、難しい現状がある。
解決策	①日野町について知ってもらう情報を若い人をターゲットに発信する。 ーSNS での知名度アップ策、ホームページの改善 ②情報の差別化のために「金持神社」をブランドとして確立する。

● 観光チーム

課題認識	魅力的でありながら、知名度の低い観光資源が多くある。 観光資源が点在しており、それぞれの資源を結ぶ動線がないため、観光客の滞在時間が短い。 移住検討者を呼び込むことも見据えて、長期滞在できるプランが必要。
解決策	日野町の豊かな自然を活かした、四季折々の観光ツアーをパッケージングする。 ー既存の観光資源（金持神社、オシドリ観察等）と自然を楽しむアクティビティ（ラフティング、サイクリング等）を組み合わせたプランの提案

● 生活チーム

課題認識	新鮮で低農薬、美味しい野菜がありながら、規格外のため流通せず、家庭でも食べきれずに廃棄されている野菜も多い。 都会にはない自然の豊かさ、人間関係の豊かさがありながら、生活資源が限られ人口減少・高齢化が続いている。 空き家が増えているが、手をかけずに、そのままの状態になっている家が多く、宿泊できるゲストハウスなどに転換できる可能性がある。
解決策	日野町の「関係人口」を増やすことをビジネスプランとして提案する。 ー廃棄野菜や空き家などの未活用資源を、人を呼び込む資源として活用する。 町外都市部のファミリー層をメインターゲットとして月額 1,000 円で「ひのサポ」として登録してもらう。会員特典として、日野町の情報提供とともに５日間滞在の権利と滞在期間中の無料野菜の提供を行う。

（2）日野町魅力化プロジェクト実施概要 【2018年】

過去2年間の振り返りを踏まえた変更点

- 受入体制への考慮から、短期集中プログラムへ変更（4泊5日⇒2泊3日）。
- 学生募集方法を追加。既存の協力大学（東京富士大学、島根大学、鳥取大学）に加え、新たに他大学からも目的意識の高い学生が参加。
- 参加学生に対する参加前ワークショップ、終了後振り返り会を実施。
- 地元高校生とのコラボレーション（高大連携）の可能性探索。
- 農業をテーマの主軸に、産業の活性化、交流人口や観光客の増加策を検討。

		内　容
8月20日(月)	13:00	根雨駅到着⇒オリエンテーション
	14:00	日野川ラフティング
	16:00	リバーサイドひの で入浴
	17:00	2日目(フィールドワーク)の準備、グループワーク
	19:00	ホームステイ先へ(夕食、滞在)
8月21日(火)	8:15	ホームステイ先を出発、移動⇒日野町役場へ
	8:30	【フィールドワーク】 ◎観光の現状を知る　奥日野ガイドクラブ
	10:30	◎農業の現状を知る　・農家の方のお話(小林さん)
	12:00	昼食(古民家沙々樹)
	13:00	(日野町役場) ◎移住政策の現状を知る(日野町企画政策課)
	14:15	【グループディスカッション】　黒坂公民館 ◎【全員】学びの共有(発散)と現状整理 ◎【チームごと】ビジネスプラン作成
	18:00	上菅ゲストハウスでの食事会・交流会
	20:15	ホームステイ先へ
8月22日(水)	8:15	ホームステイ先出発、移動⇒山村開発センターへ
	9:00 10:00	プレゼン大会
	11:00	マスコミ取材
	12:00	終了、解散

●TEAM A～C（各3グループによる現状把握・提案）

課題認識	・町自体のPR力の低さ（町の公式facebookのコンテンツに魅力がないなど）。 ・若者視点のネット検索方法では、「日野町」はヒットしない。 ・観光スポット（金持神社・金持テラス等）の未活用。 ・SNS上でシェアするための写真が残らない（ラフティング時など）。 ・農作物の品質に対する価格の低さ。 ・若者にとって観光、移住・定住に向けた効果的な施策がない。
解決策	・若い世代にとって魅力的な「空き家宿泊施設化」（BBQ、キャンプファイヤーなどの発散系・活動系）、それに加えて「希望制ツアー」の企画 ・「農業×IT」によるインターネット販売「愛菜（まな）イチバ」、その売上の一部を基金として空き家を改修し、クリエイターに提供、さらに「観光×黄色」で町をカラーブランディング ・古民家と耕作放棄地を有効活用した「カスタマイズ週末農園」

- 参加者9名：東京富士大学（学部生4名）、横浜国立大学（学部生1名、院生1名）、フェリス女学院大学（学部生1名）、青山学院大学（学部生1名）、島根大学（院生1名）

(3) 日野町魅力化プロジェクト　3年間の学生プレゼン内容と実現化施策

●日野町の課題や問題点

インフラ整備

実現化

ネット環境の悪さ
（2016産業）

農業振興

物々交換、金銭感覚欠乏
（2016産業）
規格外の廃棄野菜
（2016産業,2017生活）
農作物卸価格の低さ（2018B）
農業の後継者・人手不足
（2016産業,2017産業）

少子化対策

町の活気がない（2017生活）
子どもの少なさ（2016生活）

観光資源・遊休資源の活用

観光資源の有機的連携
（2016観光）
空き家・古民家・空き地活用
（2016観光,2017生活）
古民家・耕作放棄地（2018C）

プロモーション

町の認知不足
（2017産業,2017生活,2018A）
観光資源の認知不足
（2017観光）
観光地としてのブランド不足
（2018B）
公式facebookのコンテンツ
（2018A）

●日野町の魅力、ポテンシャル

農作物、水（2016産業）
熟練農家のサポート（2016産業）

人間関係、信頼感（2016産業）
地域で子育てする気概
（2016生活）

ふるさと住民票の有効活用
（2017生活）
写真スポット（2018A）

住環境の良さ、安価（2018B）

金持神社/金持テラス（2018A）
ラフティング（2018A）

ブランディング（2018B）

●提案（事業化アイデア）

【農業振興】
直売（2016産業）/
個人・企業へのネット販売（2018B）

実現化

【PR・移住促進】
コンテンツ配信（2016産業）
子育て環境整備（2016生活）

【観光促進・資源活用】
ひまわり園（2016観光）

実現化

【一時滞在プラン】
カスタマイズ週末農家（2018C）

【関係人口づくり】
SNS（インスタ含む）配信（2017産業）
ひのサポ（2017生活）

【空き家宿泊施設化】
発散系（騒ぐ/BBQ/キャンプファイヤー）
（2018A）

実現化

【観光プラン】
アクティビティ/サイクリング
（2017産業）

実現化

【移住促進】
「おしどり婚姻届」（2017）
クリエーター向け移住策（2018B）
風船・アート（2018B）

(4)プロジェクトの成果

① 日野町・日野町住民にとって

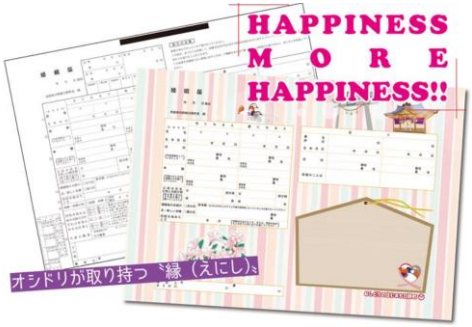
※7ページ参照

本プロジェクトからの提案が町で実現化（５件）

- 鳥取県内でもブロードバンド環境の整備が遅れていた日野町において、町の予算化により**光通信網を整備**
- 日野高校保有の自転車が、**日野町にサイクリング用として譲渡**（日野町から依頼があり、JRIが鳥取県庁の力添えのもと、県教育委員会に申し入れ）
- 地域おこし協力隊や地元有志の協力により休耕地を利用した**「ひまわり迷路」**開園、お盆の帰省家族を中心に延べ528人が来園
- オシドリと金持神社を組み合わせた、ご当地婚姻届**「オシドリ婚姻届」**を企画・制作
- 日野町の産品(ハチミツ・しいたけ・えごまオイル等)の**インターネット販売サイト**立上げ(2019年1月開設予定)

夏満開「ゴールどこ？」

ヒマワリ迷路完成



原木干し椎茸セット（ホール 50g ,スライス 50g ※送料無料）

〇フィールドワークやホームステイを通じた、町の魅力、生活課題、地域課題の発見と、若者の忌憚のないプレゼンが施策の実現に結びついた。
〇町民が、若者からエネルギーや新たな視点をもらうとともに、町の魅力に改めて気づかされる機会となった。

(4)プロジェクトの成果

② 参加学生にとって（感想から）

- 都会（東京）の学生

「東京では感じられない豊かな自然や人の温かさに触れられた」
「経験できない発想や思考、新しい価値観を得られた」
「新たな経験と成長につながった」「チームでの役割を意識して行動できた」
「自分自身の性格の弱さや課題を発見した」
「地方は深刻な問題を抱えていることがわかった」
「大学の講義では学べないことを学んだ（実践活動）」
「日野町の体験を東京の友人に伝えていきたい」
「提案事項を具体化するために勉強を始めた」
「町民の前でのプレゼンが、緊張しつつ良い刺激となった」

- 地方の学生

「日野町住民や都会の学生とのつながりを今後も大切にしたい」
「地元とはまた違った田舎暮らしを体験できた」

- 留学生

「先進国である日本でも、地方では過疎化等の問題を抱えていることを知った」
「日野町の人の優しさ、環境の良さ、食べ物の美味しさに感動した」
「地元の方とお茶しながらおしゃべりすることで日本文化を学んだ」
「また時間ができたら、絶対鳥取に行きたい」

〇多様な価値観の醸成、コミュニケーション、チームワーク、課題解決力、プレゼンテーション力等、意識面・スキル面において、学生の成長が見られた。

(4)プロジェクトの成果

③ 副次的効果（PR・情報発信）

- 活動成果は、地元紙や地元メディア、日野町ケーブルテレビにおいて好意的に取り上げられたほか、鳥取県のホームページ等で紹介された。
- 2019年2月、東京大手町にて「日野町魅力化プロジェクト報告会」を実施予定。**参加学生と日野町の関係継続**につなげると共に、地方創生等に関心のある社会人に幅広く、日野町や本プロジェクトについて周知する機会とする。

日野町ケーブルテレビでの紹介

空き家やネット活用

首都圏学生プラン提案

プロポーズ 町野町魅力化プロジェクト

首都圏などの大学生「卜」の発表会が22日、町山村開発センターで、日野町の魅力発掘や空き家やインターネット活用したビジネス計画について考える「日野町魅力化プロジェクトプラン」を提案した。

プロジェクトは首都圏や地元の大学生が町内に滞在し、観光名所の視察やレジャー体験などを通して地域の魅力を掘り起こすとともに活性化につながる計画を提示。3年目の今回は東京富士大や横浜国立大、島根大などの学生9人が2泊3日の日程で、地元住民らと交流しながら計画を作成した。

空き家が多いという課題に対し、宿泊施設化や、週末に農業をするためのゲストハウスとしての活用を提案。自然豊かでアウトドアに向いている環境を生かし、大学生向けの宿泊施設にすることで、「町の活性化につながる」と強調した。

金持神社やラフティングなど観光の潜在能力はある一方、町の認知度が低い要因として「町外向けの発信が不十分で、集客につながっていない」と指摘。谷田厚一町長は「若い人がどうやって情報収集するかが分かった。参考にしたい」と話した。

（岡野耕次）

町おこしにつながるビジネスプランを発表する学生ら＝22日、日野町山村開発センター

鳥取県HP「日野ごよみ」

2016年8月26日

首都圏からの大学生たちが「日野町魅力化発表会」でプレゼンを行いました。

８月２６日（金）、東京富士大学の学生１０名、島根大学の学生１名の計１１名の大学生が、表会」でプレゼンテーションを行いました。

この取り組みは、日野町の魅力発掘に若者を活用し、首都圏の若者に直に中山間地域の課題に部の目から見た日野町の課題とその対策を提言してもらうことを目的に、地域おこし協力隊のものです。

この企画には、東京富士大学、島根大学、鳥取大学からの参加があり、大学生たちは、産業、チームに分かれて３軒の町内の民家にホームステイし、農業体験や取材などを行い、色々な提

地域活性化の研究結果を発表する学生ら

都市部の若者がホームステイ

日野のまちづくり研究

サイクリングツアーなど提言

日野町内でホームステイをしながら町の長所や課題などを研究していた東京の学生ら12人が25日、同町根雨の山村開発センターで、研究発表会を開いた。

学生は滞在中の経験や取材などを通して課題をまとめ、地域活性化につながるSNSによる情報発信やサイクリングツアーなどを提言した。

都市部の若者の視点をまちづくりに役立てて、中山間地域の体験を学業に生かしてもらおうと、日野町地域おこし協力隊の中山法貴さん(41)が企画、昨年から実施しており、ヒアリング迷路などの提言は今年実施した。

東京富士大を中心に島根大の学生ら計12人が参加。21日から5日間、農作業体験や地元住民との交流会、取材などに学生たちは産業、観光、生活の3グループに分かれて研究活動を繰り広げた。

発表会では「各SNSの特徴を捉えた発信が有効で、スマホを意識したレイアウト変更も必要」「1泊2日のサイクリングツアーで町内の観光ポイントを回り、町に興味を持ってもらう」などの提言があった。

東京富士大3年の三上亘さん(20)は「自然が豊かで重要な資源だと感じ、廃棄されている野菜について研究。マップ作成などの経験を見て考える初めての経験だった」と振り返った。

（高塚卓人）

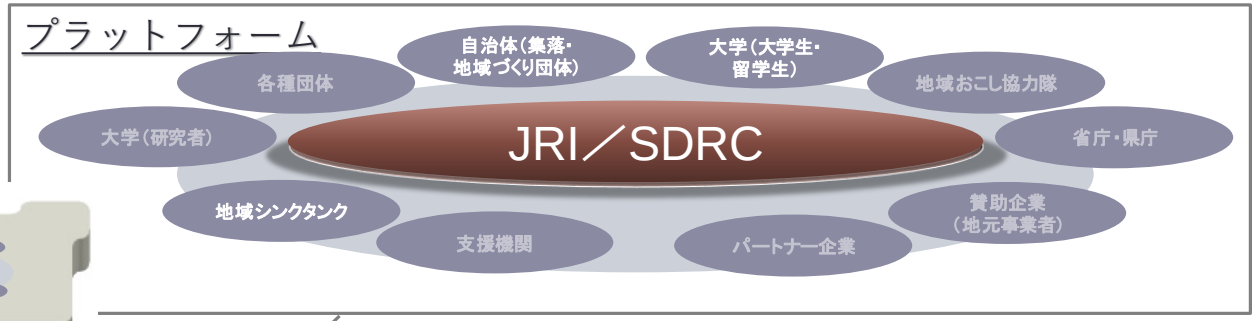
3. 今後の地方創生に向けて

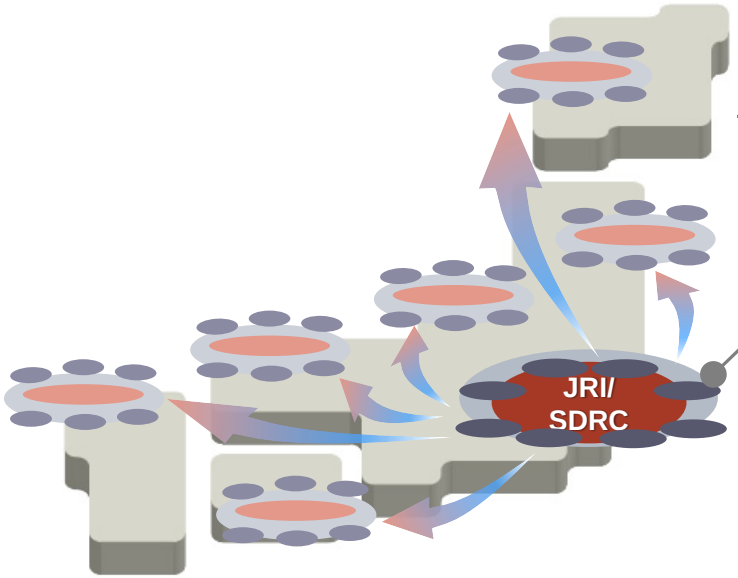
- 「魅力化プロジェクト」を核とした地方創生の推進への寄与

—本プロジェクトの**「人材育成機能」を強化**(地元人材の育成、外部若手人材の育成)

—プロジェクトから生まれたプランの事業化やブランディングの支援も視野に入れて、**全国各地の地域シンクタンク等、民間企業・団体とも連携**

—地方創生に資する知識・ノウハウ・情報をもつ**人材のネットワーキング化を推進**し、各地域を伴走支援する体制を整備





若者視点から、
これからの地方を「協創」する

一般財団法人日本総合研究所（JRI）

わがまち魅力化プロジェクト
担当：内田誠一、髙野祥代、黒田秀雄
160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15番8号
アークブランシェ四谷3F
03-3351-7575（代表） uchida@jri.or.jp